

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
魚類・円口類
昆虫類
甲殻類
多足類
クモ目
軟体動物
扁形動物

## (6) 昆虫類 ⑩ カゲロウ目

日本にはカゲロウ目昆虫は100種以上が生息するとされているが、幼虫と成虫の関係性が定かでない種も多数あり、今後の研究の進展による分類学的な整理が待たれるところである。

カゲロウ目の幼虫は河川の源流域から中・下流域、低地帯の池沼にまで様々な水域に生息しており、亜高山帯から低地帯までを含む埼玉県には多様なカゲロウ目昆虫が生息している。

埼玉県からはこれまでに10科74種1亜種が記録されており、本書を刊行するにあたり、これらを対象に本県における生息状況を調査した結果、その約4%にあたる3種をレッドリスト掲載種とした。

これまでのカゲロウ目の掲載種数の変遷をみると、初版と改訂版の5種、前版の4種、そして本書での3種と、徐々にではあるが掲載種数は減少している。これは、埼玉県における本目の昆虫全体の生息状況が好転しているからではなく、調査・研究が進んでこれまでのレッドリスト掲載種の生息状況がより明らかになり、リストに含める必要がないと判断した種が出てきたことによるものである。

次に、地帯区別に特徴的な生息種をあげておく。

亜高山帯には、水の飛沫などにより濡れた倒木や石の上を這いまわって生活するオビカゲロウやシロハラコカゲロウなどが、源流域の水中にはクロタニガワカゲロウ、ウエストントビイロカゲロウなどが生息する。

山地帯の溪流にはオナガヒラタカゲロウやフタスジモンカゲロウがみられ、台地・丘陵帯の河川の礫の表面や緩流部にはシロタニガワカゲロウ、オオフタオカゲロウなどが生息する。

また、低地帯の河川には、サホコカゲロウ、アカマダラカゲロウ、オオシロカゲロウなどが生息し、池沼では止水性種のフタバカゲロウが生息する。

埼玉県に生息するカゲロウ目昆虫で特異的なものとして、ヒトリガカゲロウとミットゲヒメカゲロウがあげられる。両種とも本州にのみ生息し、ヒトリガカゲロウは荒川と利根川および日本沿岸の河川に分布が局限され、ミットゲヒメカゲロウは関西地方と関東地方の河川で確認されているのみである。

前版からの変更点は、オオシロカゲロウをレッドリストから外したことである。これは、本種の近年の生息・発生に関する知見から、レッドリストに含めるような危機的な生息状況ではないと判断したことによる。しかし、荒川におけるオオシロカゲロウの発生状況は、年次変動がきわめて大きく、安定的な発生状況が維持されているとは言えず、レッドリストから外れたとはいえ、今後も発生状況について注意深く調査を続ける必要があると考えられる。

[付記] 次ページ以降の種ごとの解説における国内分布に関する項目は、石綿ほか(2005)、埼玉県(2008)などを参照した。

科名	ヒメシロカゲロウ科	埼玉県(2018)	EX	環境省(2015)	-
(和名)	<b>ミツトゲヒメシロカゲロウ</b>	指定状況			
(学名)	<i>Brachycercus japonica</i> Gose	-			
【形態】	体長約5mmの小型種。体色は淡褐色で、頭部前縁と両複眼内側より3本の棘状突起を有す。				
【国内分布】	本州（関西地方、関東地方）				
【主な生息環境】	川岸に水草が生えていること、川底が砂泥であること。				
【県内での生息状況】	埼玉県における採集記録は、唯一、加須市の葛西用水で1952年に確認されたのみである（埼玉県、1996）。				
【特記事項】	利根大堰周辺の調査を実施したが確認することはできなかった。近県ランク 千葉：準絶滅危惧種。				

科名	モンカゲロウ科	埼玉県(2018)	VU	環境省(2015)	-
(和名)	<b>トウヨウモンカゲロウ</b>	指定状況			
(学名)	<i>Ephemera orientali</i> McLachlan	-			
【形態】	体長20mm。黄白色で体は細長く円筒形である。頭部前縁には1対のツノ状突起を有す。触角は長く、長い毛が生えている。腹部は太く、第7～9節の背面には3本の縦条線がある。				
【国内分布】	北海道、本州、四国、九州				
【主な生息環境】	台地・丘陵帯、低地帯の河川や池沼に生息する。水底が砂や砂泥となるところに生息。				
【県内での生息状況】	埼玉県（1996）によれば、かつては台地・丘陵帯および低地帯の河川に多数生息していたとされるが、近年の生息記録はない。				
【特記事項】	2014～2016年の調査では確認することができなかった。				

科名	ヒトリガカゲロウ科	埼玉県(2018)	DD	環境省(2015)	-
(和名)	<b>ヒトリガカゲロウ</b>	指定状況			
(学名)	<i>Oligoneuriella rhenana</i> Imhoff	-			
【形態】	体長約10mm。頭部は著しく扁平で長く前縁は円い。前胸は頭部よりわずかに広く前肢は短く頑丈でその内側に長い剛毛がある。腹部は幅広く、背面は中高で、腹部は平滑である。尾毛は3本。				
【国内分布】	本州（関東地方、日本海沿岸の河川）				
【主な生息環境】	流速の早い河川や用水の川岸などにある付着物の中に生息する。				
【県内での生息状況】	1953年頃の記録によると埼玉県低地帯に多数生息していたようである（埼玉県、1996）。1960年頃から激減したとされるが、1976年に生息が確認されている。				
【特記事項】	2014～2016年の調査では確認することができなかった。近県ランク 千葉：絶滅危惧Ⅱ類。				

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

魚類・円口類

昆虫類

甲殻類

多足類

クモ目

軟体動物

扁形動物